

7) 冷媒追加封入

(1) 下表に従い、冷媒封入量を計算してください。 ※1 VP80且つ室内機がFDTPV40×2の場合のみ0.07(kg/m)。その他機種では0.06(kg/m)

	基準チャージ量 (kg)	基準チャージ配管長 (m)	冷媒配管 (液管φ9.52 1mあたりの追加チャージ量 (kg)	工場出荷時チャージ量 (kg)	追加チャージ不要の現地配管長さ (m)
VP80	2.7	20	0.06 (0.07)※1	3.3	30
XP80	2.35	20	0.06	2.95	30

- 室外ユニットは配管長30m相当分の冷媒量が工場出荷時に封入されており、30mまでは現地での追加チャージが不要です。それを超えた分については、配管長と上表より追加封入量を計算し追加封入してください。
- 既設配管を使用する場合は、液管サイズにより必要封入量が変わります。詳しくは「6. 既設配管対応」をご確認ください
- 追加冷媒量計算式

追加封入量 (kg) = {主配管長 (m) - チャージレス分30 (m)} × 0.06 (kg/m) + 分岐管総長 (m) × 0.06 (kg/m) ※追加冷媒量の計算結果が負の値になる場合は、追加チャージ不要です

- サービスなどで再チャージする場合は配管長20m以下では基準チャージ量を再封入してください。
(XP80の場合 例) 10mで再チャージする場合は2.35kg封入してください。
25mで再チャージする場合は2.35+ (25-20) × 0.06=2.65kgを封入してください。

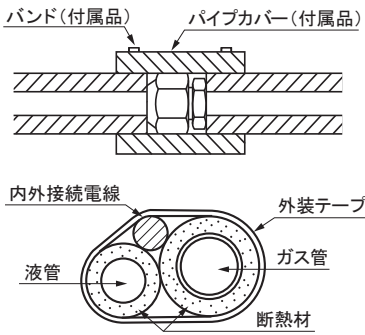
●配管長が3mより短い場合は冷媒封入量を減らす必要があります。再チャージを行う場合は冷媒回収後、上表の基準チャージ+基準チャージ配管長に対し追加した配管長分を再チャージしてください。

(2) 冷媒封入

- R410A冷媒は液相で充填する必要がありますので、ポンペを倒立させて充填するか、サイフォン管付の冷媒ポンペから充填してください。
- 操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒で封入してください。規定量が封入できない場合は、室外機のバルブを液側、ガス側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側 (吸入側) サービスポートから封入します。この際も、ポンペからの冷媒取出しは必ず液相で行ってください。ただし圧縮機保護のため、ポンペのバルブを絞り気味にするか、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用し、ユニットに吸引された時にはガス化しているように調整してください。
- 冷媒の封入は必ずはかりを使用して計算封入してください。
- 運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。冷媒不足の状態で長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。
- お願い 配管長から算出した冷媒量をサービスパネル表面の注意ラベルに記入してください。

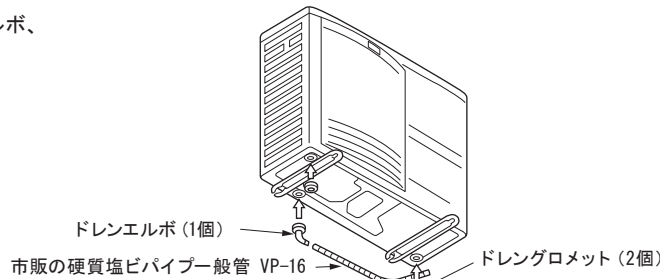
8) 断熱・防露

- (1) 冷媒配管 (ガス管、液管共) の防露断熱工事を行ってください。
 - ・防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
- (2) 断熱材は120℃以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。
 - ・ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温となるため、人に接触すると火傷などの危険があります。
 - ・室内ユニットのフレア接続部分は断熱材 (パイプカバー) で断熱してください。(ガス管・液管共に断熱してください。)
 - ・断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
 - ・本エアコンはJIS露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、相対湿度70%を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱 が必要となります。



3. ドレン配管工事

- 室外ユニットからのドレンが問題になる場所では、別売品のドレンエルボ、ドレングロメットを利用してドレン配管を施工してください。



○室外ユニットの底板には凝縮水を排出する穴が3ヶ所あります。
○凝縮水を排水口などに導くときは平置き台 (別売品) やブロックなどに載せて据え付けてください。
○図の様にドレンエルボを接続し、他の穴はグロメットでふさいでください。

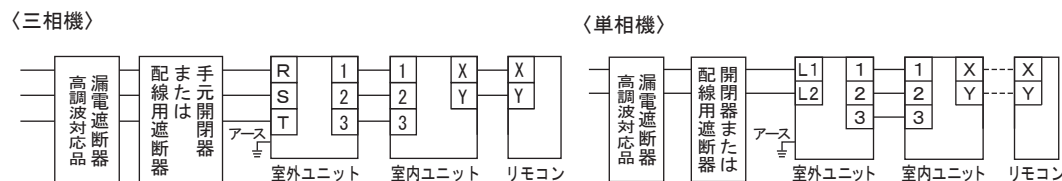
4. 電気配線 電気工事の詳細は、室内ユニットの据付説明書をご覧ください。

- 漏電遮断器の取り付けを必ず行ってください。漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。
- 内外接続線は同一端子番号を接続してください。
- 配線は、端子接続部に外力が伝わらないようにしてください。
- 制御箱にアース端子があります。D種 (第3種) 接地工事を必ず行ってください。
- 内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。

電源・内外接続線

- アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。

注意 漏電遮断器の誤動作を防ぐため、必ずインバータ回路用遮断器を使用してください。



機種	漏電遮断器定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ×本数 こう長	内外接続線 太さ×本数	アース線 太さ×本数
単相 XP80 VP80	30A, 30mA, 0.1sec以下	30A	30A	5.5mm ² × 2	20m φ1.6 × 3	φ1.6 M5
三相 XP80 VP80	20A, 30mA, 0.1sec以下	30A	20A	φ2.0mm ² × 3	32m φ1.6 × 3	φ1.6 M5

- 上表はヒータレス機の場合を示します。ヒータ付の場合は室内ユニットの据付説明書、工事説明書をご覧ください。
- 配線仕様は金属管または合成樹脂管配線で、管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を示します。これ以外の条件は内線規程により実施してください。
- 上図は室外電源取りの場合を示します。既設配線流用接続 (室内電源取り、室内、室外電源取り) はカタログ・技術資料を参考ください。

5. 試運転

- 警告 ●試運転の前に操作弁が開閉になっていることを必ず確認してください。
- 試運転の8時間前に電源を入れ、クランクケースヒータに通電してください。左記の項目に不備がありますと、圧縮機が故障することがあります。
- 停止から運転までは、必ず3分以上待ってください。
- サービスパネルを外すと、高圧充電部・高温部が露出して危険です。感電や火傷に十分注意してください。また、サービスパネルを開けたまま放置しないでください。

- 注意 ●ディップSWを操作する場合は、充電部に触れぬよう十分注意してください。
- 液操作弁のチャージポートから吐出圧力の検圧はできません。
- 四方弁 (20S) は暖房運転時に通電されます。
- 電源遮断によりリセットする場合は、電源遮断より3分経過後に電源を再投入してください。3分経過後でなければ「E-5」 (通信異常) が発生する場合があります。

絶縁抵抗について

- 据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合、圧縮機に冷媒が溜まることにより、絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく、漏電遮断器が作動する場合は、以下の事項を確認ください。
- ①電源を投入し、6時間程度経過後、絶縁抵抗が復帰するか確認する。
- ②電源を投入することにより、圧縮機に通電加熱を行い、圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。
- ③漏電遮断器が高調波対応品であるか確認する。
- 本機はインバータを装備しており、漏電遮断器の誤動作を防止するため、高調波対応品を使用してください。

1) 試運転方法

サイドカバーを外してください。

- (1) ディップSW5-3, 4により室外機側から試運転が可能です。
- (2) SW5-3をONすることで圧縮機が運転します。
- (3) SW5-4がOFF状態で冷房試運転を行い、ON状態では暖房運転を行います。
- (4) 試運転終了後は、必ずSW5-3をOFFに戻してください。

※外気温5℃以下の時、電源ON後1回目の冷房運転モードでは10分間暖房運転を実施した後、自動的に冷房運転に切り換わります。

SW-5-3	SW-5-4	
ON	OFF	冷房試運転
OFF	ON	暖房試運転
OFF	—	通常、および試運転終了

2) 運転状態のチェック

サービスパネルを外してください。

- 吐出力、吸込圧力の検圧は、室外ユニット内部の四方弁後に取り付けられたチェックジョイント及び、ガス操作弁のチャージポートから行ってください。冷房運転・暖房運転によって右表のように検出圧力は異なります。

	配管の チェックジョイント	ガス操作弁の チャージポート
冷房運転	吐出圧力 (高圧)	吸込圧力 (低圧)
暖房運転	吸込圧力 (低圧)	吐出圧力 (高圧)

3) ディップSW3-1、SW3-2の設定

サービスパネルを外してください。

- (1) デフロスト制御切換え (SW3-1)
 - ・ONすることでデフロスト制御に入り易くなります。
 - ・暖房シーズン時、外気温が氷点下以下となる地域は、設定をONにしてください。
- (2) 防雪ファン制御 (SW3-2)
 - ・ONすることで、外気温が3℃以下で圧縮機停止中、室外ファンが10分毎に30秒間運転します。
 - ・豪雪地域で使用される場合は、設定をONにしてください。

4) 試運転時の故障診断

リモコン表示	室外基板LED表示 (周期5秒)	故障内容	対策
E34	1回点滅	連続点滅	欠相
E40	1回点滅	連続点滅	63Hz作動、または操作弁閉運転 (主に暖房時に発生)
E49	1回点滅	連続点滅	低圧異常、または操作弁閉運転 (主に冷房時に発生)

- 上記以外の異常が表示される場合は、室外ユニットと室内ユニットの配線銘板をご覧ください。

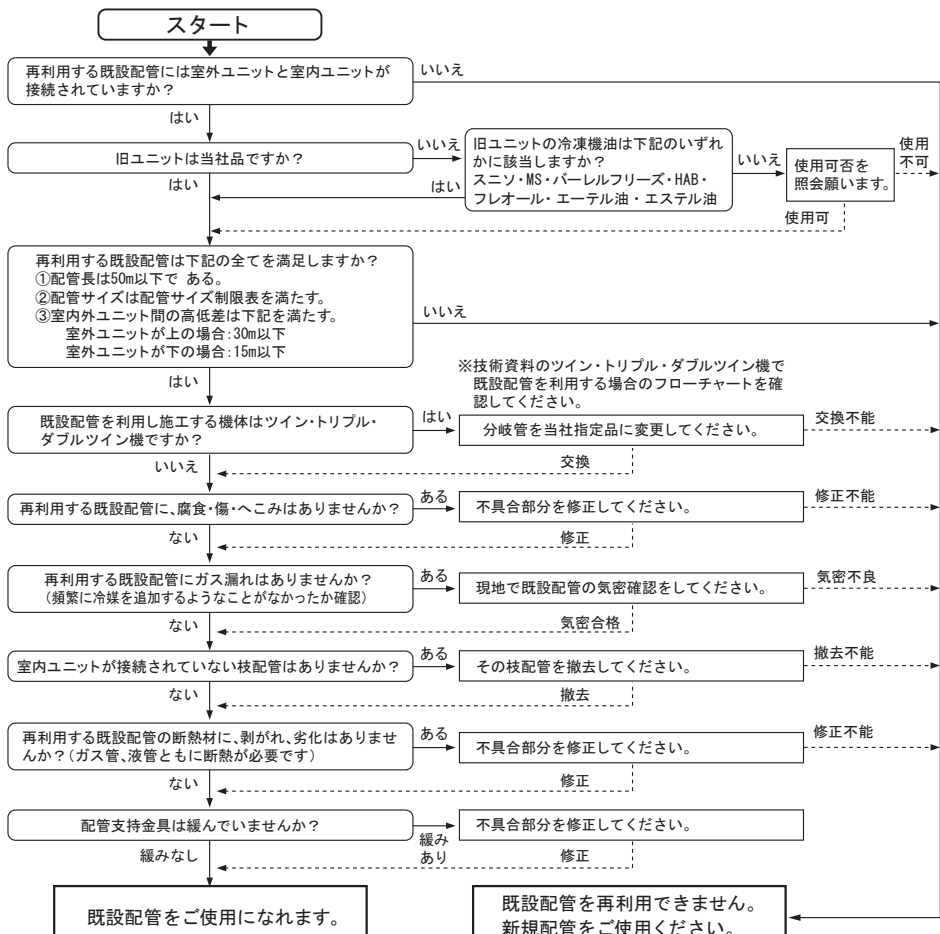
5) 停止時の電子膨張弁の状態

電源投入時の通常停止時、および異常停止時の電子膨張弁の状態は右表の通りです。

	電源投入時	通常停止時	異常停止時
冷房用	全開	全開	全開
暖房用	全開	全開	全開

6. 既設配管対応

既設配管が再利用できるかどうかを下記フローチャートを使用して判断してください。



パイプ・インパータの場合 (VP80) は、既設配管の洗浄運転が可能です。詳細はパイプ・インパータ既設配管洗浄運転手順を確認ください。パイプ・インパータでの配管洗浄機能をご使用にならない場合や、標準パイプ (XP80) の場合は以下の 注意をご参照ください。

- 注意 ●既設ユニットが冷房運転可能な場合
既設ユニットで下記作業を実施してください。(①→②→③→④の順番)
①30分間冷房運転
②室内ファンを停止し3分間冷房運転 (液バック運転)
③室外ユニットの液操作弁を締めポンプダウン (冷媒回収)
④窒素ガスによるフロ
※フロにより変色した冷凍機油や油以外の残留物が排出された場合は「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。
●フレアアットは洗浄せず室内ユニット付属のものを使用してください。
またフレアはR410A用に追加してください。
●ディップSW7-1をONにしてください。(ガス配管サイズがφ19.05の場合)
- 既設ユニットが冷房運転できない場合
別売のリニューアルキットにより、既設配管をご使用できます。
①冷媒回収機で冷媒を回収ください。
②既設配管内の冷凍機油の汚れを確認ください。
色相6.0以上の黒色、褐色(*), 多量の残渣、異臭がある場合「配管洗浄」または「新規配管」をご使用おねがいします。
※冷凍機油の色相はカタログの表を参考ください。
③リニューアルキットは取付後、SW7-1をONによりご使用可能です。
●「配管洗浄」を行う場合は、最寄の代理店にお問い合わせください。